

1 事業名

「体験の風をおこそう」運動協賛事業

平成29年度教育事業「Kids Together えいご de キャンプ in テンパーク」

2 趣旨(事業の目的)

東日本大震災の被害を受けた岩手県内沿岸市町村の陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村の児童生徒に対し復興支援の一環として、様々な自然体験活動や英語を使った国際交流活動を行い、同郷の友達と交流やふれあいを深めるとともに、豊かな心を育み心身のリフレッシュの機会とする。

3 期日

- ① 平成29年10月 8日(日)～ 9日(月) 1泊2日 (共催・教育事業)
- ② 平成29年12月 9日(土)～10日(日) 1泊2日 (共催・教育事業)
- ③ 平成30年 3月10日(土)～11日(日) 1泊2日 (共催事業)

4 参加者

陸前高田市・大船渡市・釜石市・宮古市・住田町・大槌町・山田町・岩泉町・田野畑村の小学校3年生～中学校3年生

- ① 小学校3年生～中学校3年生 98名
ボランティア 24名(NICE ボラ 11名, HSBC 社員ボラ 2名, 岩手山ボラ 11名)
- ② 小学校3年生～中学校3年生 156名
ボランティア 40名(NICE ボラ 19名, HSBC 社員ボラ 3名, 岩手山ボラ 18名)
- ③ 小学校5年生～中学校2年生 19名
ボランティア 4名(HSBC 社員ボラ 4名)

5 連携・協力

- (1) 主催: NPO法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)
- (2) 共催: 国立岩手山青少年交流の家
- (3) 協賛: Water Dragon Foundation, みちのく「体験の風をおこそう」運動推進協議会
- (4) 協力: 自然遊びクラブ, 株式会社岩手ホテル&リゾート
- (5) 後援: 岩手県教育委員会宮古教育事務所, 岩手県教育委員会沿岸南部教育事務所

6 内容

(1) 日程

- ①【第1日目 10月8日(土)】国立岩手山青少年交流の家
森のウォークラリー・ハロウィンパーティー
【第2日目 10月9日(日)】国立岩手山青少年交流の家
ハロウィンパーティー(クラフトワークショップ, インターナショナルゲーム, 音楽・科学・スポーツ体験)
- ②【第1日目 12月9日(土)】花巻市石鳥谷アイスアリーナ, 国立岩手山青少年交流の家
スケート体験教室・クリスマスコンサート
【第2日目 12月10日(日)】国立岩手山青少年交流の家
クリスマスパーティー(クラフトワークショップ, インターナショナルゲーム, 音楽・環境学習・スポーツ体験)
- ③【第1日目 3月10日(土)】安比高原

スキー・スノーボードレッスン, 国際交流ゲーム
【第2日目 3月11日(日)】安比高原
スキー・スノーボードレッスン

(2) 指導者

NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター(NICE)	上田 英司 氏	三上 はる菜 氏
自然遊びクラブ	豊留 雄二 氏	
岩手山青少年交流の家	企画指導専門職	佐々木真里子, 上村 佳邦, 中村 聡
	事業推進係	山崎 啓陽
岩手県スケート連盟公認指導員	10名	
レヴァンテ・マンドリンオーケストラ	内海 祥治 氏	
安比高原 スキー, スノーボードインストラクター	4名	

(3) 企画のポイント

東日本大震災の被害を受け仮設住宅で暮らす子供たちや, 学校の校庭に仮設住宅が立ち並び, 十分な遊びができない子供たちが, 思いっきり遊ぶことのできる体験プログラムを設定した。事前に安全管理意識を高めるための綿密な打ち合わせを実施したことで, 交流の家, NICE のスタッフ間で密な連携をとることができ, プログラムを安全に進めることができた。各回のプログラムでは, チームで協力したりチャレンジしたりする機会を多く設定した。その際, 仲間と支え合い, 交流を深めるとともに楽しみながら英語に触れ, 国際理解を深めることができるように外国人ボランティアと密な打ち合わせを行った。

(4) 広報のポイント

宮古教育事務所, 沿岸南部教育事務所の理解と協力を得て, 事務所管内の小学校・中学校にチラシを配布し, 企画の周知を行った。

(5) 運営のポイント

「えいご de キャンプ」の主催団体である NICE は, 青年向けの国際ワークキャンプ団体である。NICE は, 組織としての運営ノウハウを高いレベルで有しているが, 青少年に関わるための教育的ノウハウや, 安全に野外活動を実施するための指導力の確保が課題である。そこで, 開催地である岩手山青少年交流の家が職員及びボランティアを派遣することで教育的ノウハウを補完し, 同じく開催地の団体である「自然遊びクラブ」が野外活動の安全面についてコーディネートすることで, 事業の効率的かつ質の高い運営を実現している。

交流の家を含めた3つの団体は「沿岸地域の児童を支援する」という目指すべきミッションを共通で認識しており, それぞれの団体が, その特性を存分に活かすことで有機的な協力関係を実現している。

NICE のキャンプ運営ノウハウ, HSBC グループの多国籍社員スタッフの派遣, 自然遊びクラブの野外活動スキル, そして岩手山青少年交流の家の教育的ノウハウが密接に絡み合い, 事業を運営している点が本事業における最大の運営ポイントであるといえる。

7 成果とその普及

子供たちの感想からは, 「友達がたくさんできたし, 英語を教わりながら会話をしてみて, もっと英語を学びたいと思った。」「いろいろな体験ができ, 外国の人や学生のボランティアの方と仲良くなることができてよかった。」「他の学校の子と仲良くなるのが出来るし, 外国の人と一緒に楽しく活動できるのでこのキャンプに参加するのがいつも楽しみです。」などの感想が寄せられた。このことから, キャンプの特徴である外国語圏のスタッフとの国際交流やコミュニケーション・友達同士の交流を通して心身共にリフレッシュでき,

活動内容の有効性が認められたと考えられる。また、普段外国の人と接することが少ない子供たちにとってこのキャンプは、外国語圏のスタッフとコミュニケーションを図る大変良い機会となった。様々な活動とともに行うことで英語を身近なものと感じることができた。また、事業に参加した岩手山法人ボランティアからも、外国語圏のボランティアと協力して活動することができた。英語を使ってコミュニケーションを図ることができてよかったという声が多く聞かれ、積極的に参加する法人ボランティアが増えてきている。

また、新しく開発した活動プログラムについては、交流の家の教育事業等に取り入れ実践することができた。

企画の概要・報告書等はHPへの掲載、館内に写真を掲示し利用者への紹介をとおして幅広く普及に努めた。

8 今後の課題

毎回、季節に応じたプログラムを提供しているが、さらに、NICE、自然遊びクラブ等との連携を深め、外国人スタッフと英語を用いた活動プログラムを開発し、プログラム全体を改善しながら事業展開を行ってきたい。

心身のリフレッシュを目的に行っている事業であるが、事業を継続して7年が経過した。今後は本事業に参加した子供たちが、支援する側として地域貢献や人材育成につながるよう、フォローアップも含めた事業を展開していきたい。



森のウォークラリー



ハロウィンパーティー



スケートにチャレンジ



クリスマスコンサート



クリスマスコンサート



スキー・スノーボードレッスン